

インフルエンザワクチンには、A型2種類(H3N2:A香港、H1N1pdm09)、B型2種類(ビクトリア系統、山形系統)の計4種類が含まれる。このうちH3N2については、2017年度製造株(その年の秋冬に流行することが予測され、ワクチン製造に用いられる株)の「埼玉株」がうまく増殖せず、増殖効率が昨シーズンのワクチン株と比較して約3分の1と著しく悪かったため、途中で別の株に変更。株の変更によりワクチンの製造開始が遅れたことで、製造量不足が生じたとみられる。

